

（2009）米国の牛群乳検データが示す体細胞数（SCC）

全米乳房炎協議会が1995年から2008年までの体細胞数の経過を最新の乳房炎トピックス（2009年5-6月）で公表しましたので簡単に下記の表1と表2で1998年、2003年、2008年を選んでご紹介しましょう。同様のデータは米国農務省農業研究サービスのサイトでも公表されています。

表1の頭数で示すように米国の酪農の牛群当り平均頭数は60.8頭から131.7頭となり過去10年間で確実に増大しています。また、1頭当たり産乳量も66.8ポンド（30.3キロ）から71.7ポンド（32.6キロ）に増えています。平均体細胞数は318,000個から262,000個に減少しており搾乳手順、衛生管理、潜在性乳房炎などへの改善努力が実ってきているのが判ります。米国の牛群の約半数（47%）が乳量検定（DHI）に参加しており、参加している牛群の大部分（94%）が体細胞数検定（SCC）を受けています。

表2は表1と同じ10年で捉えていますが、牛群検定日での体細胞数が75万個以上だった牛群の割合が4.5%、5.6%、3.4%となっています。同様に60万個以上だった牛群の割合が10.1%、11.2%、7.1%となっています。また、50万個以上だった牛群の割合は17.8%、18.4%、12.5%で、40万個以上だった牛群の割合は30.3%、30.4%、22.4%となっています。表1と同様に米国の牛群の約半数（47%）が乳量検定（DHI）に参加しており、参加している牛群の大部分（94%）が体細胞数検定（SCC）を受けています。

**表1：米国の牛群乳検データが示す体細胞数**

	牛群当り頭数	1頭当り平均 産乳日量	平均体細胞数 SCC
年次	頭数	ポンド	体細胞数（1000個）
1998	60.8	66.8	318
2003	80.5	69.6	319
2008	131.7	71.7	262

注：米国の牛群の47%が乳量検定（DHI）に参加しており、  
その94%が体細胞数検定（SCC）を受けている。

**表2：米国の牛群乳検データが示す体細胞数**

年次	牛群検定日での体細胞数が下記より大きかった割合 —— (%) ——			
	>750,000	>600,000	>500,000	>400,000
1998	4.5	10.1	17.8	30.3
2003	5.6	11.2	18.4	30.4
2008	3.4	7.1	12.5	22.4

注：米国の牛群の47%が乳量検定（DHI）に参加しており、  
その94%が体細胞数検定（SCC）を受けている。

余談ですが日本の乳検定データ、及び、体細胞数データは地域によっては米国全体の平均よりも優れている数値があるでしょう。永年、お手本にしてきた米国の酪農よりも優れていても、そのことを手放して喜ぶのは薦められません。米国の膨大な地域をカバーする酪農、日本よりも現場での指導を徹底的に浸透させることが難しいという背景の中での改善です。日本でもデータを維持しながら前進することが如何に難しいかは、これから表面化してきます。データを維持するだけでも毎年、くだらないと思われるほど地道なことを怠らないでコツコツと繰り返し維持する必要があります。中身は違うものの私などは日常の生活習慣を維持すること自体、大変に難しいです（瀬良、2009）。